

414
A 4402



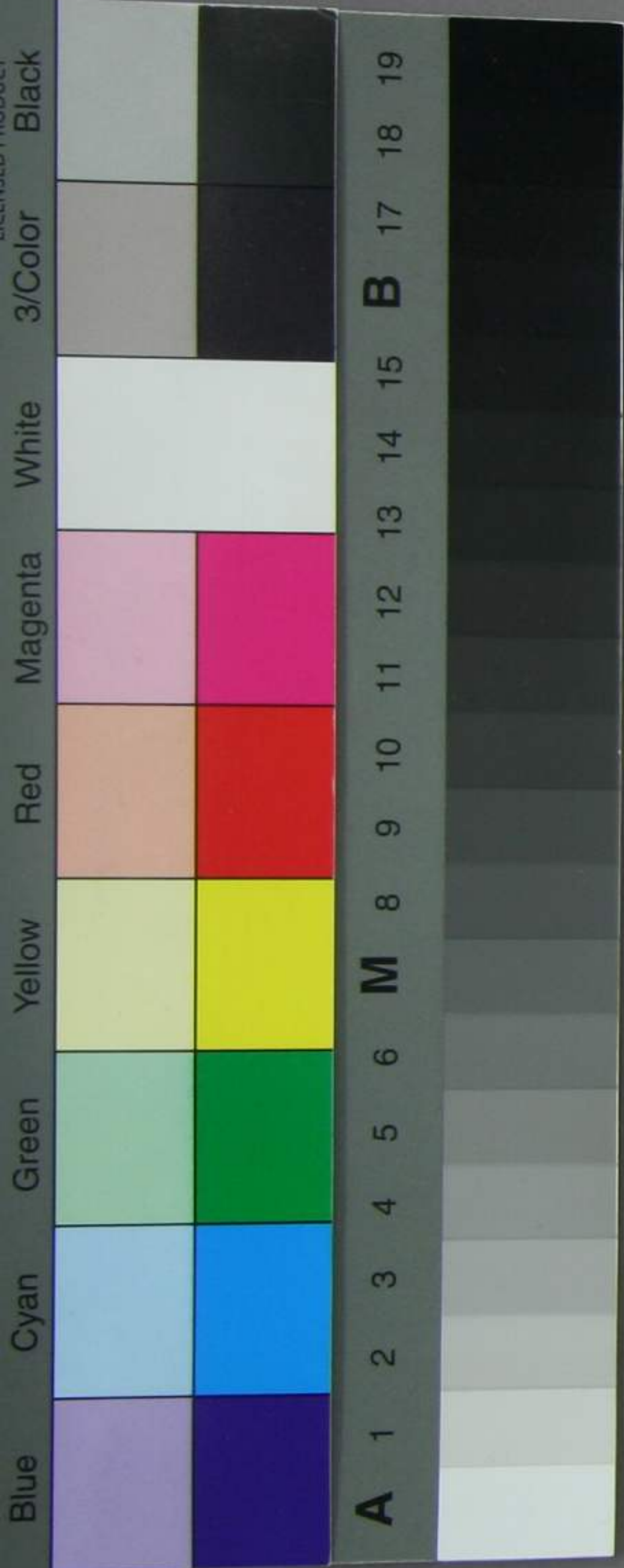
ホズケレド氏講述第一回 九年一月七日

茲ニ日本ニ於テ經濟學ニ於ケル講述ノ事業アルハ實ニ有用ナル一大盛況ト謂
クシ此際諸君ノ更ニ虚飾装親等ヲ設ケザルモノハ凡ソ學問藝術ニ係ル開
業ハ質朴簡易ニシテ適宜恰好ナルヲ尚フヲ以テノ故ナルベシ併シナガラ此事
ノ欧米諸邦ニ傳播シテ慶スベキ効驗ヲ顯スハ諸君モ亦之ヲ拒マザラシカト
信スルナリ當今五大洲中斯學ヲ崇信スルノ輩固ヨリ鮮少ナラザルニ因リテ
此報ヲ得バ定メテ之ヲ稱讚スルヲ知ルベシ而メ又是レヨリ緊切ナル一事アリ
即チ外國人民此盛舉タルヲ聞カバ果シテ日本政府ノ真成ナル自由精神
ニ依テ贊動セラレタル所以ノ新證ヲ見及ヒ之レニ依テ又日本政府ノ諸外邦ト
極メテ同一ナル目的并便益ニ進行スルニ汲々勵精ナル所以ノ明確徵候ヲ看出ス
ニ至ルノ事是レナリ○抑モ經濟學ハ何ツレノ國ニテモ最初ヨリ輒スク信用ヲ受
ケ且ツ速カニ行ハレタルハ甚タ稀レニシテ就中佛國ノ如キ此學目今ノ隆盛ヲ致
スト雖モ其始メ之ヲ開カントスルノ際ハ全ク誤解謬傳セラレテ批駁百出竟ニ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈月

1664

1663



之ヲシテ行ハレガシメシト閱年ノ多キニ居リタレト今日本ニ於テハ幸ニ官府ノ
獎勵トニ大臣ノ照顧トニ因リ輒スク此學ノ行ハルヲ見併カモ帝國政府ノ官
榮ナル正院ノ中ニテ初發此講義ノ聲音ヲ聴カシムルヲ得タリ而メ予ヤ此
學ヲ講述スルノ命ヲ辱フス實ニ榮譽ノ至リ且其任タル甚タ容易ナラザルヤ
倘シ予ヲシテ此學ヲ信スルノ厚キト又之ヲ擴メテ予ノ兼テ依托スル所ノ國家
若シクハ政府ニ報酬裨補スル所アラシクヲ冀望スルトニ非スバ馬ヅ能ク驚
懼失措無キヲ保タンヤ

予先ツ最初ニ俱モク講究セントスル學術ノ旨趣目的ヲ説カン○經濟學ハ
近世各國ノ言葉ニテ大抵之ヲポリチカル政治エコノミート稱スレ其之レニ冠スル
所ノ首辭丈ケハ穩當ナラス何者ポリチカルノ辭アルガ故ニ或ハ此學ヲ誤認シ
テ國家ノ政府ニ於ケル真理ヲ議論シ其中主トシテ政府ノ結構體裁尤モ以
テ最上ナル所以ヲ研究スルノ學術ト見做スノ恐レ有シモ計リ難タケレドモ是レ果
シテ然ラス何者經濟學ハ更ニ政府ノ體裁各様如何ニ關係マラスシテ言般ノ事

之レト並行一致シ苟モ此學ヲ問明シ併セテ此真理ヲ實行スルニ於テハ帝國
共和國并立君國民主國ヲ問ハス殆ント些少ノ取舍斟酌ヲ須ヒスシテ是等
ノ國ハ等シク其利益功績ヲ得ベク○然ルニ之ヲポリチカルエコノミート稱セシ
以ハ即チドノスキック一家エコノミーニ混同セザルガ爲メナルベケレドモ此ドノスキック
ハ即チアラサウエイト私ノ義ナレバ爰ニ俱モク論スル所ノ經濟學ハ矢張ホプリッ
ク公エコノミー若シクハハシヤル社會エコノミート稱スルノ自然ニシテ且ツ明瞭ナ
ルニ如カス否ラズンバ則チ他ノボタミー本學ホリ井シ國政ロチック論理ラングエイ
スキック國語エウジック音律等ノ諸學術ト同様ホリチカルノ一辭ヲ省キ單ニ
エコノミート稱スルニ如カザルベシ日本ニテハ諸君稱シテ經濟學トシ即チエ
コノミー學ノ義ナレバ更ニ却テ瞭解シ易カラナリ
今其公私若シクハ一家ト一國トノ別ハ姑ラク措キ先ツ爰ニエコノミーノ義
如何ヲ説明セン○エコノミートハ通俗且ツ狭キ字義ニ於テ節儉即チ所得ノ
中ヨリ務メラ蓄積スルト同義ニ用フレト學術上精確ニシテ且ツ其字義ヲ較

合セテ經濟學ノ大眼目トス又一國ノ人口ハ生財ト消費トノ間ニ平均ヲ失ハシ
ハルイアルガ故自然經濟學家ノ論述スル所ニ係レバ之ヲ消費ノ部ニ附スルカ若シ
ク第五ノ事項ト做スカニテ論述スベシ○今此學ヲ申明スルニハ務メテ予ガ私
説ヲ加ヘス必ス謹テ諸大家ノ確説ニ憑據シ以テ此四者ヲ説カシ且ツ予是等事
ヲ講述スルニ止コルト雖モ其事柄ニ因リ苟モ日本ノ為メニ大ニ裨益スル所
アラントスルモノハ其時ニ臨ミ之ヲ講明スベシ

○第一 生財ノ事

財貨ハ一トシテ造化ノ力ニ資テ生レ且ツ人ノ力役ニ籍リ加ルニ資本ノ助ケアル
ヲ以テシテ之レガ形状ヲ造製スルモノニ非ザルハ無シ○經濟學ハ造化ノ力ヲ
使用スル所以ノ良方ヲ放示スルモノニハ非ザレドモ造化ノ働キハ故テ其報償ヲ
求メズシテ勤勞ヲ與フルモノナリト云爾ノ説アリ而シテ此説ハ佛國ノ經濟大學
家ノ一人ナルバスキヤ氏千八百一十年生レ千八百五十年歿スノ榮譽ト為スベキモノナリ是レ予等
應サニ財貨ノ分配ニ於ケル理斷ニ至テ之ヲ詳知スベシ○力役ノ生財上ニ於テ

最モ重要ナル働キヲ為スハ亦經濟學中ノ事ニテ一ダキスニテ明證
セシ所ニ係レリ蓋シカ役ハ數百年來人ノ賤業ヲ以テ之ヲ目シタレドモ一旦此明
證アリシ以來大ニ之ヲ尚フノ風ヲ起シタリ○

經濟學ニ於テ奴隷ノ力役ハ自由ノ人ニシテ相當ナル賃錢ヲ受クルモノノ力
役ニ比スレハ其生財ニ不利ナル所以ヲ論シタルニ此際抗論者アリテ多年ノ間之ヲ
爭フニ至レリ當時奴隷ヲ廢スルニ專ラ正理ト人道トニ基キ論シタル間ハ到底其
効無カリシカ經濟學ニテ此場合ニ於テハ正理ト使用トノ二者一致並行スルヲ猶
オ凡百場合ニ於ケルカ如キ所以ヲ證明シ終ニ長ク其陋見頑説ヲ打破スルノ効
ヲ收ムルヲ得タリ想フニ千八百年代ノ末ニ逮テハ地球上恐ラクハ一個ノ
奴隷ヲモ見ザルニ至ルナルベシ○日本ハ曾テ奴隷ノ一聞ク無キガ故ニ經濟學家
ノ之レガ論破等ニ從事スルヲ要セス之ヲ歐米諸邦ニ比スレバ其幸太甚シト
謂ツベシ然レモ現今諸國ニ行ハル所ノ事業即チ力役并資本ノ組合ハ日本ニ
於テ應サニ採用スベキモノニ係ルベシ而シテ常ニ定マリタル賃錢ノ力役アリ又其

利得ノ割合ニ從テ再々其賃錢ヲ拂フノカ役アリ此二者ヲ比スレバ第一種ヨリ
モ第二種ノカ役ガ餘分ニ生財ノ助ケヲ為スコトハ之ヲ經驗ト道理トニ參照シテ
虚妄ナラザルコトナレリ。日本ニ於テ其耕作方ノ善良ナルハ毫モ他國ニ讓ラザル
ベシ尤モ其方法并農業器械等ハ未ダ満足ナラザル所アリト雖モ是等ノコトハ追々人
々各自ノ發明企望ニ因テ之ヲ補充スルニ至ルベシ。然レモ凡ソ精良ノ物産ヲ
他國ヨリ都合能ク輸送供給スル所ハ(特ニ其土地ノミニ依頼スルコトヲ要セス)其
國ノ欠乏要求ニ應スル物品ヲ成就シテ之レト相交換スル所以ノコトヲ此經濟學
ニ於テ説明スルガ故ニ日本ニ於テモ此次第ハ自カラ明了ナルベシ尤モ此詳細ハ生
財ノ融通ナル部ニ於テ之ヲ陳述スベシ。○是等皆經濟學上講論スル所ノ事
件ニシテ且ツ民法ニ於ケル大ナル問題ニ係レリ

又經濟學ハ日本ニ於テ本政府又ハ地方官府等ニテ土地ヲ共有合持スルコトヲ
變革シテ之ヲ耕作人各自ノ私有ト爲シ又一時若シクハ不定ノ耕作方法
多分旧政体ヨリ因襲シ來リタル所ノモノアラバ之ヲ永久ノ耕作ニ改換スルコ
ト

ヲ示教スルナリ。○不動産ヲ所有スルノ權理アレバ又勝手ニ之ヲ賣却讓與
スルノ權理無カルベカラザルハ當然ノコトニテ其賣却讓與ノ法簡便ナル所ハ自カ
ラ所有者ノ信任ヲ増シ又不動産ニ於ケル權理ヲ公明ニスル所ハ其買受人
并債主ヲシテ安堵ヲ保タシムルニ足レリ現ニ歐洲ニテハ經濟學ノ関ケシヨリ
民法中此件ニ付テ有用ノ改革ヲ爲シタルモノ多少之レ有リ此事ヤ日本
ニ於テモ亦冀望スル所淺小ナラザルベシ。○農業上ニ付テ凡ソ土地ヲ分有スルコト并
賣買ト相續トニ因テ土地ヲ永久ニ分有シ若シクハ細分スルニ付テノ損害一件ニ
於テハ經濟學上緊要ノ問題ナリトス今日日本ニ於テ猶オ盛シニ行ハル所ノ
例子相續法ノ如キ後來日本ノ相續法ニ於テ多少ノ弊害ナレバ之ヲ救濟セザ
ルベカラサルノ旨趣ヲ此學ニテ會得シ并財產ヲ平等ニ分配スルノ法ニ於ケル
流弊ヲ變通スルコトヲ得ベシ但シ相續法ノ一問題ハ未ダ歐洲中充分ノ解
釋ニ至ラス現ニ英佛ニ在テ其法律大ニ異同アリテ論說頗ル紛紜ヲ免レサルナ
リ

農業上ノカ役（イ）ヲ了スレバ更ニ工業上ノカ役（ロ）一件ニ及ハガレバカラス此際亦經濟學ノ日本ニ於テ多少此一件ニ付テノ裨補アルヲ觀ルコト知ルベシ夫レカ役（ハ）分派法ノ効驗ハ理論上ト經驗上トニ於テ明了ナル所ニシテ其理漸尤モ富強ニシテ驚異スベキモノ、一ニ係レリ○人ノカ役ニ代ユルニ機械ヲ以テスルコトハ常ニ役者ノ利ナルノミナラス其包管人（即チ製作所ノ他ノ主者）為メモ亦多少ノ利益効績アル所以ヲ証明スルハ又此學ノ擔任スル所ナリ佛國其他ノ國ニ於テ新奇ノ機械ヲ職業上ニ用ヒントスルキハ常ニ職人等ノ抗拒ヲ取ルコトヲ免レス動モスレバ初入ノ織物器械印刷器械ヲ始メ其他耘耨器械ノ如キニ至ル迄是等諸人ノ騷動ニ因リ破碎遺サレニ至レリ是等頑固無知ヲ解キ其實益ヲ悟ラシメタルモノハ全ク經濟學ノ効ス所タルハ舍テ論セス凡ソ世治國運ヲ維持スルニ種強大ナル輔助ヲ與フルハ此經濟學ニ如クハ無シ

○第二 財貨ノ融通

所謂財貨ハ他ニ非ス唯人ノカ役ニ資テ之ヲ生シ以テ其需用ヲ足スノ

物タル所以ハ此後屢々時機ニ觸レ之ヲ詳説シ及ヒ證據ヲ示スコトアルベシ然ルニ一人ノ需用タルヤ固ヨリ千種萬類ノレバ曾テ一人ノ得テ能ク之ヲ生スル所ニ非ザルヤ必セリ而シテ一方ニ於テハ則チ人各々其長シタル所ノ特別ナルカ役ヲ使用スルキハ其物ヲ生スルコト自餘ニ殊絶シ且ツ自個ノ消費ニ充ツベキ丈ケヨリモ遙カニ餘分ナルコトヲ得ベシ譬ハ農夫ノ如キ衣類ヲ織リ家屋ヲ築クコトヲ為サザルハ勿論自用ノ車サヘモ之ヲ製造スルコトヲ為サザレバ其一歳中作出ス所ノ物（即チ穀物ヲ指ス）ニ至テハ恐ラクハ其人生涯中ノ消費ニ充ツルモ猶オ餘リ有ル程ノ多量ナルベシ之レニ反シテ自餘ノ衣類ヲ織ル家屋ヲ築キ若シクハ車ヲ造ル諸職人ニモ其食物ヲ生セザルノ徒タリ如此ク異同ノ物品アル際ニ當テ若シ交換ノ方無クシバ此物品ハ全ク各人ニ於テ其價位ヲ失ヒ財貨ニシテ財貨ニ非ザルナリ故ニ交換ノ方ノ便利ナルハ即チ是等物品ヲシテ諸人ノ需用ニ應酬セシメ且ツ右等諸物ノ價位ヲシテ増加セシムル所以

故ニ交換ノ方法ハ財貨ノ融通ヲ開明スルハ復々經濟學ノ一部分タ
リ
佛蘭西英吉利及ヒ白頭義ノ如キカ役ノ働キ頗ル著シルミト雖モ若シ
道路漕渠并鐵道ノ網細工同様國內ニ縱横シ各地方ヲ接近ナラ
シムル非スニバ何ヲ以テ回産復生ノ効益アルヲ見シヤ之レニ反シテ伊斯巴泥
亞ハ地形ノ宜シカラガルト政治上ノ紛乱トニ因リ通信運送ノ便未タ右等後
ニ睦若タルヲ免レザルガ之ヲ成就シ得ル迄ハ右等諸國ニ比スレバ其貧國タル固ヨ
リ言フヲ待タザルベシ今此經濟學ハ日本ニ於テ道路漕渠并鐵道ノ便ヲ開通
セシメテ指示シ且ツ諸法令又ハ規則中何事ニ依ラス苟モ内地ノ商業ヲ妨害
スルモノハ一々之ヲ廢止セシメテ要求スベシ
若夫レ一國中又ハ外國ト自由ニ物産ヲ交換スルノハ既ニ各國ノ經驗スル所ニ
係レリ日本ニ於テハ猶オ時機ヲ待テ成果ヲ考ヘ然後其尤モ利アル所ニ就テ之
ヲ實施スルノ權利ヲ有スルヲ誠ニ然リ故ニ經濟學ハ日本ノ尚ニ未タ輸出入

ノ海關稅ヲ廢止セシメテ示教スルノ場合ニ至ラザレハ日本ハ他國ノ如ク最モ
自由ナル國々ト其進路ヲ同フシ隨テ其利益ノ報酬ヲ受領スルノハ固ヨリ予ノ
疑ヲ容レザル所ナリ

○第三 財貨ノ分配

凡ソ財貨ハ造化ノ力ニ資テ生シ且ツ人ノ力役ニ藉リ加ルニ資本ノ助ケアルヲ以
テスルモノタルハ予ノ既ニ解明スル所ナリ○儲造化ノ力生財ノ助ケヲ為スニ
曾テ其報償ヲ要セスシテ專ラ仁惠ノヲタルハ予ノ追々辨明スル所ノ如クナレハ
人ノ力役ト資本トニ至テハ是レト大ニ異ナル所アリ○夫レ力役ハ智能ト身トノ
者常ニ各ク其必要ナル所ニ應シテ種々若干ノ割合ヲ以テ彼此相結合スル
ニ因テ其効蹟アルモノナルガ故ニ適當ノ報償ヲ得ルノ期待無クテハ其動作上精
勵スルヲ無ク又永續ヲ期スベカラザル○凡ソ生財ノ包管人タルモノ或ハ自カラ其力
役ニ服シ及ヒ自カラ其資本ヲ出スモノアリ又或ハ力役資本トモ之ヲ他人ニ仰
クモノアリ此二者 結局皆ハシク其之ヲ生シタル財貨ヨリ其報償ヲ得ザルベカ

大 歳 首

ラス是ヲ經濟學ニ於テ生財ノ働カト稱ス○爰ニ其一例ヲ舉テ之ヲ明
カサンノ田地ヲ所有スルモノアリ之ヲ乙者ノ雇作ニ貸附ス此雇作者即チ農夫更ニ
傭夫ヲ以テ其耕作ヲ助ケシメ又資金ヲ借テ農具種物肥糞等ヲ購求セリ
此際地主タルモノ其田地ヲ貸與シタルヲ以テ其收穫中ノ所得一分ヲ得ルハ當然
トニシテ雇作者ハ即チ包管人ニシテ其智能并精魂概シテ之ヲ言ハバ其力役
ヲ出シタレバ又之レガ為メ其報酬無カルベカラス農夫モ亦其力役并智能ヲ付與
シタレバ是又同シク其報償ヲ受ケザルベカラス結局資金ヲ貸與シタルモノモ
亦同シク其分前ヲ要求スルナルベシ凡ソ地主ノ利得ハ之ヲレント又ハハルマージ共
地代又ハ雇作料ノ義ト稱シ貨幣若シクハ物品即チ穀物ニテ之ヲ拂フモノトス職人即チ前文ノ傭夫等
ノ報償ハ「サラレイ」即チ賃銀又ハ給料ノ義ト云ヒ其拂方前ニ同シ金錢上ノ利得ヲ「レント」
トト即チ利息ト稱シ多クハ金錢ヲ以テ之ヲ拂フトス若夫レ雇作者ノ利得
ハ一定ノ名稱無ク唯收入ノ内ヨリ諸入費ヲ引去リタル餘分ヲ以テ之レニ充テ是レ
即チ包管人ノ利得ニシテ常ニ異同アルモノナリ

經濟學ハ凡ソ之ヲ致協カノ効蹟ニ因テ所謂財貨ノ分配一件長良ナル所以
ノ公正適當ナル真理原則ヲ明カニスルニ汲々タルモノナリ此目的ヲ達スルニハ
必ズ立法又ハ行政上ニ於テセザルベカラザルカト云フニ是レ決シテ然ラス必ズ官
府ハ唯是等ノ「トニ曾テ關係捲入セザル」ヲ要請セラル、ノ「三隨テ同一ノ理ニテ」
凡ソ官府ハ交易上ノ方畧又ハ商賣品ノ直段ヲ指定限界スベカラス且ツ各人
ノ勤勞即チ工作ニ於テ相互ニ要求スル所ノ報償即チ賃銀ヲ限定スベカラザルナ
リ○歐米諸國ノ實驗ニ在テ是等差配規則ハ双方互ニ其利益ヲ照ラシ遂ニ
巧者ナル協議ニ因テ起ル所ノ方法ヲ以テ最トス蓋シ人各々相互ノ勤勞ヲ
安スルノ必然避クベカラザルヤ之ヲシテ一緒ニ聚合セシムルニ至ルナリ而メ要求
支給トノ間ニ互競スルノ「トアル」ニ因リ遂ニ此雙方ノ平均ヲ得テ度外ノ事ニ至
ラサルモノナリ職人等ノ其賃銀ヲ騰貴セシメ罷工ノ騷動ヲ起ス「ハ今日」
猶オ屢々之ヲ見而メ其使役者ニ於テ一致連合シテ是等職人ニ抗拒スル「一」
亦之レ有レ之ヲ「刑律」上ニ於テ嚴シク罪罰スルノ「ハ」幸ナルカナ一時ノ過去ニ屬

シタリ畢竟官府ハ准是等職業ノ運動上ニ於ケル働キヲシテ自由ナラシムルヲ保護シ且ツ諸職人ノ強テ教唆セラレザル様之ヲ防衛スルノ一ニ止ルノミ

○第四 財貨ノ消費

前キニ既ニ陳述セシ如ク經濟學ハ財貨ノ消費一件ヲモ論説スルナリ○此事
許ニ付テハ各國ノ事蹟ニ於テ其例ヲ見ルガ如ク經濟學ハ敢テ奢侈ヲ禁
止スルノ一ヲ要スルニ非ス又必スシモ人ヲシテ強テ節儉ニ從事セシムルノ一ヲ示放
スルニ非ス是レ畢竟下手ノ方法動モスレバ不善不正ニシテ其弊害却テ其修正
セント欲スル所ヨリ太甚シキガ故ニ此二件ハ舍テ問ハザル所ナレモ凡ソ消費ノ無
益ニ陷ルモノヲ指斥シ及ヒ諸物ノ風趣百般ノ巧藝是レ即チ文明開化一事
由タルモノノミナラス又之ヲ興隆スルノ一物タル所以ノモノヲ賛成スルハ復タ此學ノ
汲々タル所ナリ米國ノ獨立ヲ開基セル有名人物ノ一人ナルフランクリン氏
千七百九十
年歿ス言ヘル有リ曰ク無益ノ長物ヲ買フモノハ後日必ス必需ノ要品ヲ賣
ルニ至ルベシト○又經濟學ニ於テ凡ソ一般公共ノ土木等ヲ官榮スルモノ一

ヨリ以テ之ヲ善ミスト雖モ其人民ノ公益ニ供スル一之ヲ其此入費ニ付キ負荷
セル所ノ賦稅ニ比スレバ一層盛大ノ利アルニ非ザレバ不可ナリトス○租稅ノ事
モ亦此學ノ判断スル所ニ係レリ而シテ凡ソ賦課ノ麻野ナル原品ニ及ヒ隨テ其
製作産殖ヲ障害スル所以ヲ指示シ并或ル一物ニハ重稅ヲ課シテ他ノ一物ハ
猶オ免除ニ係ルガ如キ許ル等ニモ論及セリ

經濟學ニ拮抗スルモノ之ヲ非難スルノ說ニアリ今之レガ答辨ヲ為シテ其說
ヲ破斥スルハ予ノ甚タ好ム所ニシテ蓋シ日本ニテモ亦再ヒ此說ヲ立ルモノアルモ計
リ難キニ付キ宜シク預シメ其勢歛ヲ殺クベキナリ○其說ニ云ハク經濟學ハ專
ル財貨ヲ富殖スルノ學ナレバ特ニ使用ノ原則ヲ講求スルガ為メニ竟ニ正理ノ
原則ヲ拋棄シ又利益ノ研究ニ走テ遂ニ權理ノ一ヲ遺忘スルニ至レリト此論ヨ
リシテ經濟學ハ二個ノ純精ナル性質即チ性理ト道義トノ如キモノヲ包含セ
ザルト誤認シテ頻リニ之ヲ排撃スルノ成果ニ至リシナレモ元來經濟學ハ正理
ト使用ト曾テ相離サル所以ヲ確然説明スルニ至テ是等駁説自カラ破碎

シテ其跡ヲ歛メ遂ニ巨大ノ勝利ヲ得タルハ既ニ以前久遠ノ一ニ保レリ(日本ニ於テモ亦將サニ之レト同一ノ事由ナルベシ)而ノ苟モ其一人一個ノ利益ニ在ラズシテ一國一般ノ利益ニ就テ思考スルハ正理ノ在ル有ルニ非ラザレハ馬ンゾ能ク其使用ト利益トヲ保ツヲ得ンヤ又(同一ノ旨趣ニテ言フハ)正理ノ真意原則ニ憑據シ然後人民一般ノ便利使用得テ生ズベキノミ○羅馬ノ有名ナル理學者セロ^ロ曾テ言ヘル有リ云ハク使用ハ正直ト相反キ相離ルベカラス若シ正直無クシバ是レ便利有用無キナリト此言ヤ今ヲ距ル實ニ二千有餘年ニシテ爾後逐次ノ講義ニ於テ彌ク正理ノ使用ニ於ケルヤ彼此常ニ相離レザル所以ヲ証明セントス

今一個ノ駁説ニハ經濟學ハ事實ヲ考究スルノ術ニシテ實理ヲ教諭スル所ノ學ニ非スト○是レ其目的此學ノ所要部分ヲ毀損セントスルニ在レ決シテ此學ヲ難スルノ論ニ非ラスシテ予輩ノ曾テ服セザル所ナリ○經濟學ハ固ヨリ人間社會上ノ事實ヲ考究スルニハ相違無キヲ猶オ醫家ノ疾病ニ於ケル

事實若シクハ物理學家ノ天地萬物ニ於ケル變化不測ノ異象及ヒ天文學者ノ日月星辰ニ於ケル運行ヲ考究スルト同一一般ナリ然而ノ是等ヲ稱シテ醫學物理學天文學トシ都テ之ヲ學ト云フヲ非拒スルアルヲ聞カザルナリ又(同一ノ旨趣ニテ)經濟學家ハ常ニ事實ノ効驗ニ注意シ併セテ其之ヲ出現セシ原因ヲ穿鑿スルモノハ是等ノ一般財貨閑達ノ道ニ於テ其得失利弊如何ヲ察シ之レガ變通賛成ヲ施為スルニ在ル○人間社會ノ存在セル所以ハ固ヨリ偶然ノ事實ニ非スシテ一人一個ノ生存スルモ天地自然ノ物理アリ以テ道義ノ動作云為ヲ具ヘ併セテ有形ノ人事ニ及ボスノ外他故アルニ非ザルナリ蓋シ人タルモ相互ニ輔相勤勞シテ各々其便益ヲ極メ及ヒ相當ノ情欲ヲ満足スルヲ即チ道義ノ法ニ適當スルモノニシテ即チ天理ノ自然萬世ニ亘リ易フベカラサルモノナリ是等ノ法規ハ社會上ノ民法并刑法同様人造ヲ以テ力施スルモノニ非ス又能シ更革變通スベキモノニ非ス唯誠實ニ注意循守スルノヲアルノミ但シ苟モ之ヲ注意循守セント欲セハ首ノニ之ヲシテ察見了悟スル所無カルベカラス其之ヲ吾人ニ

大歳

指示教諭スルモノ是レ即チ經濟學ナリ○熟ク古代ノ歴史ヲ考フルニ歐亞ニ於テ一時隆盛ヲ極メタル大國アリト雖正終ニ其滅亡ヲ速キタルハ大抵經濟ノ道理ニ暗ラクシテ之レニ背戾シタルノ故ニ非ザルハ無シ今其一例ヲ擧テ之ヲ証センニ古昔羅馬帝國ノ盛大ナルヤ諸國ヲ鞭撻シテ下ニ服從シ殆ンド天下ヲ一統シタルニトタヒ日耳曼蠻民ノ未熟ヲ受クルヤ否ヤ直キニ滅亡ヲ取リシガ是レ全ク羅馬ノ人民タルモノ正理ト使用トノ相待テ用ヲ為スノ理ヲ了解セス其利益ヲ謀ルニ當テ更ニ人民ノ權理ヲ妨害スルヲ顧ミテ徒ラニ戰ヲ以テ富饒ヲ致スノ好術トスルニ至テハ愚モ亦甚シ而メ一方ニ於テハ則チ力役并高賣ノ如キ之ヲ賤業ト做シ一ニ之ヲ奴隸ノ手ニ委シ其自由ノ民ハ唯空手游惰ニシテ不正ニ得タル所ノ富庶ヲ以テ悉トク之ヲ奢侈ニ付スルニ至レリ今ヨリ後歴史中如此キノ現状ヲ見ルコトハ恐ラクハ之レ有ラザルベシ畢竟現今將來ノ別無ク世界各國ノ間ニ信義交際ヲ全フシ而メ經濟ノ道理ハ時ト所トヲ擇マス又季候ニ關セス互ニ各國ノ信義交際ヲ擴メテ各國ノ殊別人民ヲ因結制取スル所ノモノ

ナリ故ニ此道理ヲ擴張スルハ猶オ從前奴隸ヲ批駁廢止セシ如ク戰闘ヲシテ其根ヲ絶タシムルモ未タ知ルヘカラス又正理并人間ノ公道ニ於テ戰闘ニ代ユルニ萬國仲裁ノ事ヲ以テスルニ非ザルバ則チ凡ソ凶器ヲ用ヒスシテ萬國ノ平和ヲ保ツニ至ラシムルモノハ此經濟學ニ於テスルト謂テ可ナリ○日本ハ實ニ舊國ニシテ其光榮モ亦鮮少ナラザルハ敢テ疑ヲ容レザル所ナレト今ヨリ天地自然ノ法則ニ基キ以テ民法刑法ノ改正ニ從事シ併セラ經濟ノ道理ニ據リ以テ富饒ノ事ヲ開達スルハ則チ彌ク此國ヲシテ盛大ノ域ニ至ラシメ永ク後來ノ歴史ヲ耀カスヲ斷シテ知ルベシ是レ其事他無シ即チ力役ヲ崇尚シ及ヒ其動作服勤ヲシテ自由ナラシメ資本ヲ増殖スル節儉ノ方ヲ勸勵シ法律ヲ明ラカニシ以テ人民ノ權理ヲ保護シ職業ノ利益ヲ興隆シ外國ニ向テ卑屈畏避スル所無クシテ平和親睦ヲ保チ每舉百事正理公道ニ依據スルニ在ルノミ

東京千八百七十六年一月七日

ボアソナーード速

